まちづくりシンポで3市長討論

防災や観光、医療対策は

北海道行政書士会網走支部（横内寿治支部長）創立50周年記念シンポジウムが16日、北見市内のホテルで開かれた。小谷毎彦北見市長、水谷洋一網走市長、宮川良一紋別市長が「未来を拓くオホーツク21世紀のまちづくりを語る」をテーマに観光や医療について語った。内容を詳報する。（宮口江梨子）

――東日本大震災を受けて、自然災害から住民をどう守るか。

小谷 2007年に地震防災マップに関する調査を実施。常呂川東岸断層帯と相内北西リニアメントの二つを地震源として想定。最大震度6強だった場合、全半壊は1千戸を超え、避難者数は800人を予想している。市内では常呂地域が津波被害の可能性がある。津波ハザードマップの配布、避難訓練の実施を行いたいと思っている。

水谷 災害の少ない地域で防災の意識が低いことが課題。網走に津波警報が出た06年は避難率35%、07年は避難率10%だった。07年は津波を見ようと海岸線に市民が集まってしまい、混乱した。意識啓発や避難訓練実施に取り組みたい。

宮川 91年に鉄路が廃止され、空港整備や高規格道路整備促進に取り組んでいる。流氷を観光の目玉にしてきたが、まだまだ模索中だ。しかし、流氷観光の勢いが年々減少しており、不安がある。観光客の50%は夏に訪れている。流氷観光が「危険があるとき」と具体的な基準となっていないことが課題。広域連携で相乗効果を生み出したい。

――観光戦略や今後の展望は。

小谷 北見型観光推進プロジェクトを07年から3年計画で進めており、現在第2次計画を推進している。第1次計画の中で観光戦略会議を立ち上げ、九つの提言をいただいた。8月にかけて、ラグビー特別チーム14チーム中7チームが合宿、12チームが練習試合で訪れてくれている。ラグビーチームは1チーム約100人が約10日間泊まる。1人1泊3食で1万2千～1万4千円くらいとすると10日間で1チーム1400万円落としてくれる。宿泊や練習試合などを含めた網走での経済波及効果は1カ月半で約5億円となる。ラグビーチームは毎年来てくれる究極のリピーター。そうした人たちにいかに網走の魅力を発信するかが今後の交流人口の拡大につながる。新しい基軸で通年を通して網走に来ていただけるよう「健康」をキーワードに観光誘致していきたい。

宮川 流氷観光が不透明な部分があり、現在進めているのが、産業遺産である東洋一と言われた鴻之舞金山の有効活用。住友金属工業の協力を得て進めている。また、砂金もまだ採取できる状況で、観光の一部として利用できないか検討している。海のマチなので、番屋の復活プロジェクトを民間中心で進めている。

――医療の現状と課題について。

小谷 4月1日から北見市立夜間急病センターを開設した。医師会など医療関係機関などが集まり、北見市医療問題協議会を設置。協議の結果、1次救急医療機関である夜間急病センターは北見市が責任を持って設置すべきだとの提言を受け、開設に至った。14日現在で、患者数は1日平均14・5人、多いときで27人で夜間急病センターの重要性を実感している。

水谷 1次救急の患者でも網走厚生病院に来ていることで、医師は疲弊している。1次救急はそれぞれの自治体で行ってもらい、2次救急や脳疾患については網走厚生病院に来てくださいというルールづくりが必要。医療は公共財と考え、各自治体がそれなりの財政負担に応じ、住民の命を守るべきではないかという議論を始めているところだ。

宮川 一昨年8月から市直営の夜間急病センターを開設し、1次救急は何とか果たせる体制になっている。近隣の3次医療を担う病院に、どれだけ短時間で患者を運べるかが課題。脳疾患の患者を紋別から運ぶには早くても1時間半近くかかるのが現状。ドクターヘリは利用しづらい状況。紋別市は6回要請して、天候の影響でうまく降りられたのは1回。救急医療はかなり深刻な状態にある。

小谷毎彦北見市長

水谷洋一網走市長

宮川良一紋別市長

サロマ湖

カキ養殖 今年も

宮城県の稚貝 例年の6割仕入れ

東日本大震災を受け、今年のサロマ湖でのカキの養殖を見送る方針だった常呂、湧別、佐呂間の3漁協は18日までに、今年も養殖を実施することを決めた。カキの稚貝全量を買い付けている宮城県石巻市周辺の養殖業者が被災し、一度は断念したが、被害を受けていない稚貝があり、例年の6割相当分を仕入れることができたため。

3漁協は石巻市と東松島市の養殖業者8業者から稚貝を購入している。そのうち、入り江に養殖施設を設けていた石巻の業者4件は被害が少ないことが分かり、無事だった稚貝の一部を出荷してくれることになった。

3漁協の販売計画に基づき、湧別に全体の59%、常呂に30%、佐呂間に11%が配分される。3漁協は20日以降、それぞれ現地から稚貝を車で運び、順次サロマ湖に移す予定だ。

3漁協の年間出荷額は湧別が3億円、常呂が1億5千万円、佐呂間が3千万円。湧別の工藤薫常務は「計画の半数以上を確保できてひと安心。被災して大変な中、これだけの量を出荷していただき非常にありがたい」と話した。（野口洸）

園児2人から ロタウイルス

北見市内

北見市は18日、市内の保育所で園児19人が下痢やおう吐、発熱など感染性胃腸炎とみられる症状を訴え、このうち2人の便からロタウイルスを検出したと発表した。

市保健福祉部によると、19人は8～18日におう吐や下痢などの症状を示し、18人が医療機関を受診、2人が入院した。2人は既に退院しており、発病者はいずれも快方に向かっている。

北見保健所で感染経路などを調べている。北見保健所は「ロタウイルスは経口感染するので、手洗いの徹底を」と呼びかけている。

安田学さん、美緒さん長男、長女

＝北見市緑ケ丘1

私のベビー

あやと
彩心ちゃん（2歳）＝左
ひより
陽心ちゃん（1歳）

きょう
6時
北見
網走
斜里
美幌
遠軽
紋別
雄武
女満別空港
弟子屈
阿寒湖温泉
5ミリ未満